

このプログラムは、印刷処理の結果を実際に紙に出力せずに画面上で確認できるプリンタ ドライバです。
印刷プレビュー機能のないアプリケーションでも、このドライバを使うことによってプレビューを行うことが可能になります。
プレビューしたい目的のプリンタの設定画面を使って設定情報を取り込むことにより、そのプリンタでの印刷結果をエミュレートします。

このプログラムを使用すると次のような利点があります。

- 紙やインクを節約できる。
- プリンタが接続されていないコンピュータでも印刷結果を見ることができる。
- 自分が持っていないプリンタでの印刷結果を確認できる。

配布ファイル一覧

PREVIEW.DLL	印刷プレビュー用プリンタ ドライバ	カーネル モード ドライバ
PRVIEWUI.DLL	...	"	ユーザー インターフェース ドライバ
PRVIEWUM.DLL	...	"	ユーザー モード ドライバ
PRVIEWWW.EXE	...	"	ビューア
PREVIEW.HLP	"	状況依存ヘルプ
prviewpm.dll	...	"	ポート モニター
CSETUP.EXE	セットアップ プログラム	
CLEANUP.EXE	ドライバ削除プログラム	
PREVIEW.PDF	プログラムの使用方法 PDF 形式	
SP_PREVI.EXE	...	プログラムの使用方法 自己印刷形式	
README.TXT	この作品についての説明	
LICENSE.TXT	ご利用条件	

動作環境

このプログラムは Windows NT 4.0 , Windows 2000 および Windows XP 上で動作します。

他のバージョンの OS 上での動作は未確認です。

Windows 95 系の OS では使用できません。

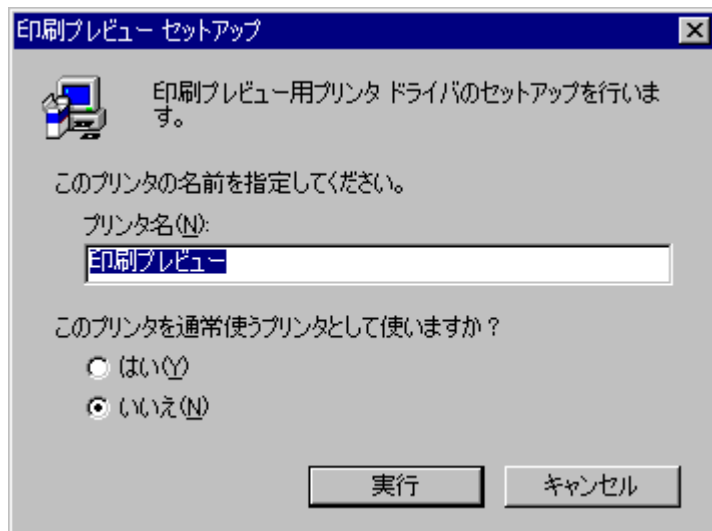
以降の説明は Windows 2000 の場合について行いますが、Windows NT 4.0 , Windows XP の場合も、画面のデザインが異なるだけで機能的には同じです。

インストール

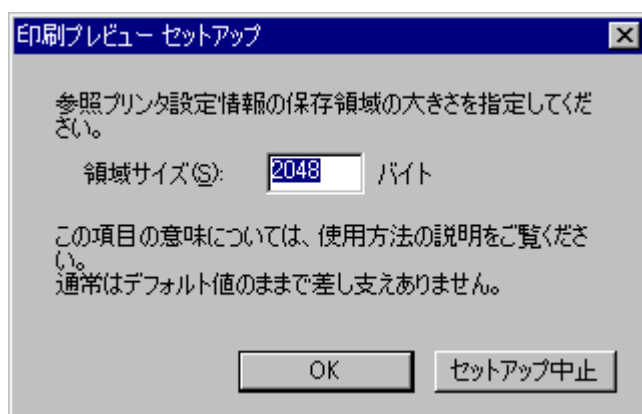
インストールは CSETUP.EXE で行います。
インストールには管理者権限が必要です。インストールするときは管理者権限のあるユーザーでログオンしてください。

インストール手順

CSETUP.EXE を起動します。
次のような画面が表示されます。



プリンタ名と、通常使うプリンタにするかどうかを指定して[実行]ボタンを押します。
次のような画面が表示されます。



参照プリンタ設定情報の保存領域の大きさを指定して、[OK]ボタンを押します。
「参照プリンタ設定情報の保存領域」については後ほど説明しますが、通常は初期表示された数値のままにしておいて構いません。

インストールが終了すると確認メッセージが表示されるので、[OK]ボタンを押します。



CSETUP.EXE を実行するときは、ドライバのファイル(上記配布ファイル一覧の“PREVIEW.DLL”～“prviewpm.dll”)を CSETUP.EXE と同じディレクトリに置いてください。

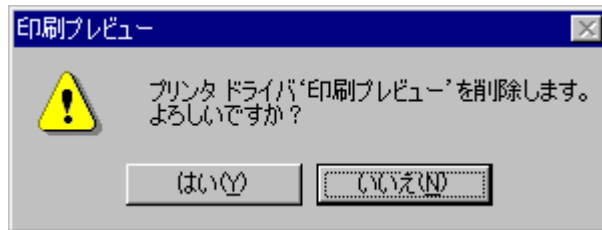
アンインストール

このドライバに限りませんが、[プリンタ]フォルダでプリンタを削除してもドライバはコンピュータ上に残ります。また、このドライバでは専用のポート(ポート モニター)を使用しますが、プリンタを削除した後もポートは残ります。ドライバやポートが残っていても支障はありませんが、CLEANUP.EXE でドライバとポートを削除することができます。ドライバ、ポートの削除には管理者権限が必要です。ドライバ、ポートの削除を行うときは管理者権限のあるユーザーでログインしてください。

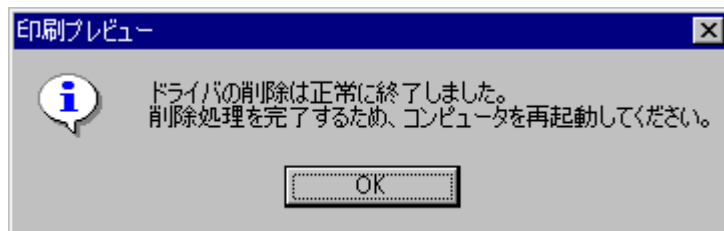
ドライバ、ポートの削除手順

[プリンタ]フォルダの[削除]で印刷プレビュー用プリンタを削除します。
複数の印刷プレビュー用プリンタを使用している場合はすべて削除してください。

CLEANUP.EXE を起動します。
確認メッセージが表示されるので、[はい]ボタンを押します。



ドライバ、ポートの削除が終了すると確認メッセージが表示されるので、[OK]ボタンを押します。



レジストリの登録情報や使用していたファイルは、まだこの時点では実際に削除されてはいません。次回起動時に削除されるように設定された状態になっています。

コンピュータを再起動すると削除が完了します。

もし、上記操作中にファイルが使用中のため削除できない等のエラーが表示された場合は、一度コンピュータを再起動して、再度 CLEANUP.EXE を実行してみてください。

ドキュメントの設定画面

印刷ダイアログ等で表示されるドキュメントのプロパティや,[プリンタ]フォルダの[印刷設定](Windows NT 4.0の場合は[ドキュメントの既定値])では,次のような画面が表示されます。

[プリンタ参照]ページ

最初のタブ ページにはプリンタを選択する画面が表示されます。



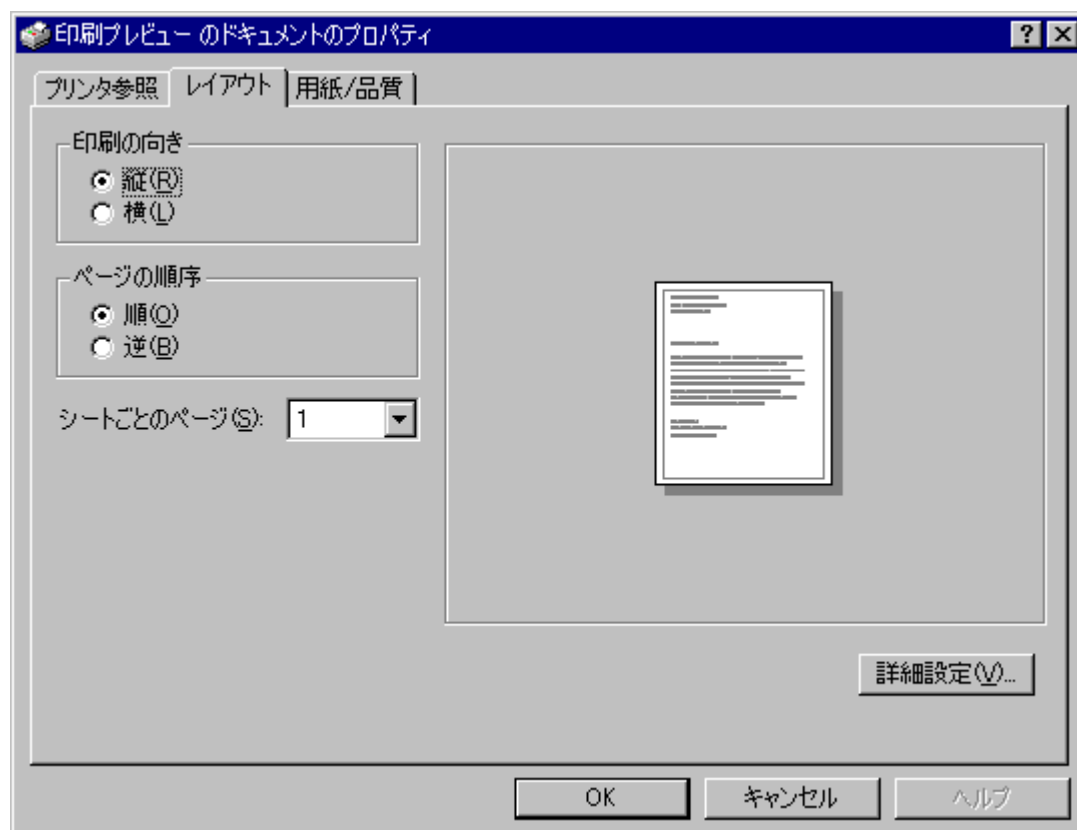
[プリンタ名]コンボ ボックスに,インストールされているプリンタの一覧が表示されます。一覧からプレビューしたい目的のプリンタを選びます。

特定のプリンタ用のプレビューでなく,単に印刷結果を画面で見たいだけであれば,適当なプリンタを選ぶか,または[プリンタ設定を参照しない]を選択します。

プリンタ固有の設定ページ

2 番目以降のタブ ページには、選択したプリンタの設定画面が表示されます。
次の例では[レイアウト]、[用紙/品質]がそれにあたります。

プリンタ固有の設定画面の例



ここで、実際のプリンタに印刷するときと同じように各項目を設定します。

独自の設定ページ

[プリンタ参照]ページで[プリンタ設定を参照しない]を選択したときは、2 番目のタブ ページにこのドライバ独自の設定画面が表示されます。

特定のプリンタに合わせてプレビューする必要があるときは、この画面で各項目を適当な値に設定します。



ビューア

印刷プレビュー用プリンタに対して印刷を行うと、内部で印刷結果のイメージを作成した後、ビューアを起動して印刷結果を画面に表示します。

印刷結果表示の例



ビューアの操作

◀ ボタン

最初のページを表示します。

◀ ボタン

前のページを表示します。

▶ ボタン
次のページを表示します。

◀ ボタン
最後のページを表示します。

[倍率]コンボ ボックス
表示の倍率を指定します。ドロップダウン リストから選択するか、入力フィールドに直接数値を入力して Enter キーを押します。
直接数値を入力するときは 400 % 以下の値を入力してください。
ドロップダウン リストの[全体表示]を選ぶと、現在のウィンドウの大きさにページ全体が収まるように倍率を自動調整します。

[閉じる]ボタン
ビューアを終了します。

画面下部のスライダ
スライダを移動して、表示するページを指定できます。

キー操作による画面スクロール

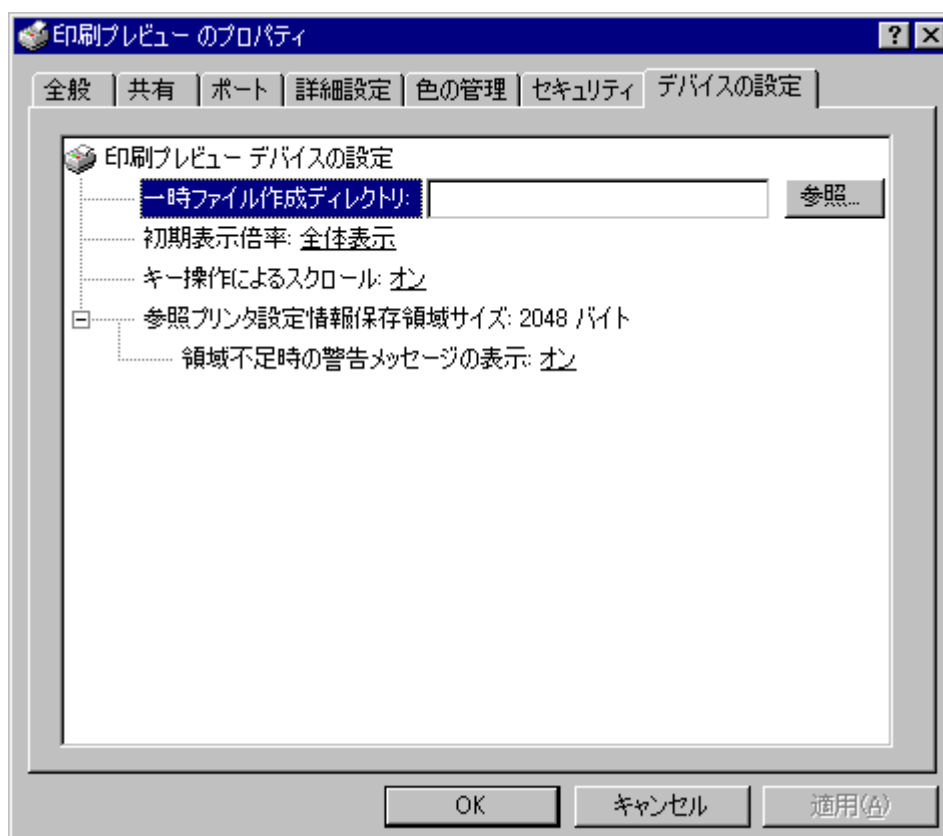
デバイスの設定画面で[キー操作によるスクロール]がオンになっている場合、Alt キーと特定のキーの組合せで画面スクロールを行えます。

キー	操 作
Alt +	右にスクロールする
Alt +	左にスクロールする
Alt +	下にスクロールする
Alt +	上にスクロールする
Alt + Page Up	1 画面分上にスクロールする
Alt + Page Down	1 画面分下にスクロールする
Alt + Home	ページの左上を表示する
Alt + End	ページの右下を表示する

ただし、[キー操作によるスクロール]がオンのときは、Alt キーを使う Windows の標準のキーボード インターフェースは使えなくなります。具体的には、[倍率]コンボ ボックスで Alt + , Alt + キーでドロップダウン リストを開く / 閉じることはできません。

デバイスの設定画面

プリンタのプロパティの[デバイスの設定]タブ ページで、動作に関するいくつかのパラメータを設定できます。



[一時ファイル作成ディレクトリ]

作業用に使用する一時ファイルを作成するディレクトリのパスを設定します。

未設定の場合は、システムで既定の一時ファイル用ディレクトリを使用しますので、通常は設定の必要はありません。大量のページをプレビューするために、一時ファイルを作成するドライブを指定したい場合等に設定します。

[初期表示倍率]

ビューアを起動したとき最初に表示される倍率を指定します。

[全体表示]を選んだときは、ページ全体(ページによって大きさや用紙方向が異なる場合は最初のページについて)が表示されるように倍率を自動調整します。

[キー操作によるスクロール]

ビューアで Alt キーを使ったスクロールを可能にするかどうかを指定します。

[参照プリンタ設定情報保存領域サイズ]

参照するプリンタの設定情報を保存する領域の大きさが表示されます。

この項目の説明は「参照プリンタ設定情報の保存領域について」をご覧ください。

[領域不足時の警告メッセージの表示]

参照するプリンタの設定情報を保存する領域が足りないとき、警告メッセージを表示するかどうかを指定します。

この項目の説明は「参照プリンタ設定情報の保存領域について」をご覧ください。

参照プリンタ設定情報の保存領域について

このドライバでは、ドキュメントの設定画面で選んだプリンタ(プレビュー対象のプリンタ)の設定情報をこのドライバ自身の設定情報の中にそっくり保存しています。それは、対象プリンタの設定画面を開いたときに、以前の設定値を復元するためです。

設定情報の大きさはプリンタによって異なりますので、設定情報を保存する領域は、使用するプリンタの設定情報のうち最大のものを格納できる大きさが必要です。設定情報の大きさが動的に変わっては不都合なので、このドライバの設定情報の大きさはインストール時に決定する必要があるため、したがって、その中に格納できる対象プリンタの設定情報の最大の大きさもインストール時に決まってしまう。インストール時に指定する「参照プリンタ設定情報の保存領域の大きさ」は、この設定情報格納領域の大きさのことです。

インストール時に初期表示される保存領域の大きさは最低でも 2048 バイトになります。大抵のプリンタについては、この大きさで足りると思います。また、インストール時には各プリンタの設定情報の大きさを調べ、最大のものに合わせて表示の数値を増やしますので、通常は初期表示された数値のままでインストールして問題ありません。問題が起きるのは、印刷プレビュー用プリンタをインストールした後で、確保されている保存領域の大きさより大きい設定情報を持つプリンタをインストールした場合だけです。そのようなプリンタを後でインストールすることが予想されるときは、あらかじめ領域の大きさを増やしてインストールしてください。

現在確保されている保存領域の大きさは、デバイスの設定画面の[参照プリンタ設定情報保存領域サイズ]で確認できます。また、各プリンタの設定情報の大きさは、ドキュメントの設定画面の[プリンタ参照]ページでプリンタ名の下に表示されます。

保存領域の大きさが足りない場合、設定を保存するときに警告のメッセージが表示されます。設定情報が保存できなくてもプレビュー処理は行えますが、次回その設定画面を開いたときに前の設定内容が復元されません。たとえば、[プリンタ]フォルダの[印刷設定](Windows NT 4.0 の場合は[ドキュメントの既定値])でドキュメントのデフォルトを設定しても、設定画面を開いたときにその設定が反映されていない等の問題が起こります。

対象プリンタの設定情報をそっくり保存するのは別に、用紙サイズ、用紙方向等各プリンタに共通の情報は、他の領域に保存していますので、保存領域の大きさが足りない場合でもある程度は設定内容を復元できます。プリンタによってはそれで十分な場合もあるかも知れません。また、印刷の度に毎回設定をし直せば、保存情報がなくてもプレビューは可能です。

そのように、保存領域が足りない状態のまま使い続ける場合、印刷する度に警告のメッセージが表示されるのは煩わしいので、デバイスの設定画面の[領域不足時の警告メッセージの表示]をオフにすれば、警告メッセージが表示されないようにできます。

印刷プレビュー用プリンタを複数インストールする使い方

お使いのコンピュータに複数のプリンタを接続している場合、プレビューを行うとき、まず印刷プレビュー用プリンタを選び、次に印刷プレビュー用プリンタの設定画面で目的のプリンタを選ぶという二段階の選択が必要になります。

それが面倒な場合は、接続しているプリンタの台数分、印刷プレビュー用プリンタをインストールするという使い方もできます。たとえば、Canyon 社の MBP-A404 と EPSILON 社の PV-1000 という 2 台のプリンタを使っているとします。(メーカー名、プリンタ名は架空のものです。)

このとき、印刷プレビュー用ドライバのインストールを 2 回実行し、それぞれのプリンタ名をたとえば「MBP-A404 プレビュー」、「PV-1000 プレビュー」等とします。そして、[プリンタ]フォルダの[印刷設定](Windows NT 4.0 の場合は[ドキュメントの既定値])で対応するプリンタを選択しておけば、それぞれの印刷プレビュー用プリンタを選ぶだけでよいので手間が省けます。



使用上の注意点

(1) このプログラムでは、プレビューの表示結果がプレビュー対象のプリンタでの印刷結果となるべく同じになるようにしていますが、完全に同じになる訳ではありません。
特定のプリンタでの印刷結果確認のためにこのドライバをご使用になる場合は、最終的には実際のプリンタに出力してご確認ください。

(2) このプログラムは、印刷時の設定内容によっては多量のメモリを消費します。
使用メモリ量は主に次の要素で変わります。

- 印刷用紙の大きさ

用紙が大きいほど多くのメモリが必要です。

- 解像度

同じ大きさの用紙でも、解像度が高いほど多くのメモリが必要です。

- モノクロ / カラー

カラー印刷ではモノクロ印刷より多くのメモリが必要です。

- ビューアの表示倍率

ビューアで印刷結果を表示しているとき、表示倍率が大きいほど多くのメモリが必要です。

必要メモリ量が多すぎると、正常にプレビューを行えないことがあります。

使用可能なメモリ量は使用環境によって異なりますので、使用環境に応じて各設定値を調整してください。